

特集

論理的に書こう!

前号では、論理的に「話す(聞く)」ことを取り上げました。今回はそれを「書く(読む)」という視点から再考します。引き続き、「論理的に考える」のではなく「考えた後で論理的に整理して話す(書く)」のだということを念頭においていただきたいと思います。

「話す」ことに比べれば、「書く」ことに関して教員はまがりなりにも学びの経験を積んで来ています。また、上記のように「考えた後で論理的に整理する」ための時間は、「話す」より「書く」ほうが、たいていの場合は多く取ることができます。それでも「論理的に書く」のが苦手という人は少なくありません。これは、「論理的」という言葉の理解と、効果的なトレーニングの不足が原因の1つではないでしょうか。

今回の特集は、「論理的に書く」前に「なぜそうするのか」「どんなときそうするのか」という自問が大事であること、および「書く」というのはコミュニケーションの手段であること、それぞれを再確認することから始まります。それらをふまえ、相手に何をどう伝えたらいいかを念頭において、論理的に考えを整理して執筆することの重要性を説きます。それから、看護教員ができる「論理的に書く」ためのトレーニングを、パラグラフ構造やアウトラインを用いたり、短い文から始めたりというように具体的に紹介していきます。

教員自身が「論理的に書く」ことの意味を理解できれば、伝えたいことを伝えたい人により明快に伝えられるようになります。そして、その姿勢が学生に伝われば、きっと学生も「論理的に書く」ことに興味をもってくれるでしょう。そうなることを願っています。

(前号の特集『論理的に話そう!』も併せてご覧ください)